

# 組織培養による苗木の増殖

～ 優良個体からの品種づくり～

組織培養によるクローンの大量増殖技術は、試験管内で茎頂、種子、樹木の形成層などを培養し、品質が同じ苗木をたくさんつくるものです。この方法を用いると、さし木、つぎ木などが難しかった樹種でもクローン化や品種化ができるようになります。

写真はハイブリッドカラマツの培養の経過を追った例です。生長物質や栄養分をいれた培養器のなかに頂芽を置くと、いくつかの新しい芽が発生し（A）、それぞれの芽からシュートが伸びてきます（B）。この芽を一つずつわけて発根させます（C）。ここまでは人工的な無菌環境です。無菌で育てた苗木を自然環境にならすことを馴化（じゅんか）といいます。Dは馴化中の苗木で、山に植えるまで育てることに成功しています。

林業試験場では、ハイブリッドカラマツのほかに、エゾヤマザクラ、ミズナラ、キハダの組織培養についても研究しています。

